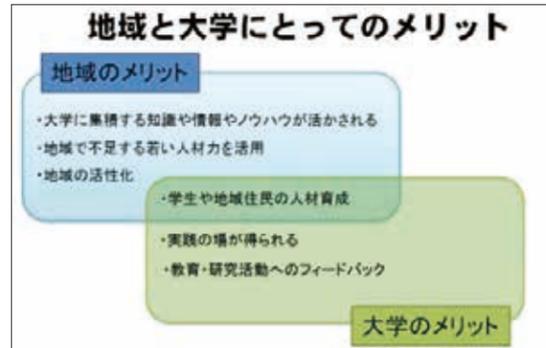


域学連携事業

～大学生の力で
地域を元気にするプロジェクト～

◆域学連携という言葉を知っていますか？

域学連携とは大学生と教員が地域に入り、地域の住民とともに、地域づくりに継続的に取り組み、地域の活性化及び地域の人材育成を図るものです。地域と大学にとって次のようなメリットがあります。



◆内谷地区集落活性化事業

～地域課題の発見と解決に向けて～

内谷地区（内谷東・西町内会）では、平成26年度から福島大学の岩崎ゼミ（指導教官：岩崎由美子教授）の学生が、集落活性化について活動を行ってきました。地域の課題を発見し、解決に向けて何が必要かを考える、学生と地域住民との共同の取り組みです。

学生たちは、4月の太々神楽から始まり、集落の方との意見交換、地区の芋煮会でのインタビュー調査、集落点検（たからもの再発見）、太々神楽の楽人へのインタビュー調査、ごんぼつば餅やあんぼ柿、しめ縄を作り体験などを内谷地区のみなさんと一緒に行ってきました。

このような活動を通して発見した「内谷の地域課題」とそれを解決するためのアイデアを学生が提案します。報告は年度末に開催予定の「地域づくりカフェ」で発表されることになっています。



お母さんたちへのインタビュー調査



あんぼ柿作りを体験

～参加した学生の声～

- ・田舎での地域資源を活かした生活にあこがれる若者は増えている。自分もこうした暮らしを試してみたい。
- ・ごんぼつば栽培は耕作放棄地の活用に活かせる。
- ・内谷には、たくさん知るべきことがあると感じている。これからも内谷に関わっていきたい。
- ・山からの景色はとて美しい。眺めだけでも価値がある。
- ・太々神楽に参加している子どもたちは「かっこいい」「町の文化」「責任感」など、全員が神楽に魅力を感じている。自分たちの伝統に誇りや魅力を持てる自慢できる文化だと思う。

◆地域づくりから"まちづくり"へ…

いろいろな地域づくりが、国見のまちづくりに繋がります。それぞれの地域に暮らす人々が明るく、輝いて、しあわせ感を感じて日々を過ごすことができる。そんな地域づくりをしてみませんか。

域学連携に興味がある。自分の地域でもやってみたいなど、地域づくりに興味のある方は、企画情報課までご相談ください。さまざまな地域づくりを応援します。



冬空を飾る 光の共演

—あつかし山ビッグツリー点灯式—

冬の風物詩 ビッグツリー点灯

今年で23回目となった「あつかし山ビッグツリー点灯式」が12月23日、上野台運動公園で行われました。点灯式では「明日へ。復興・きずなイルミネーション」の表彰式が行われ、個人の部は、三の輪俊幸さん（森山）、団体の部では国見町商工会商業部会へ「とてもすばらしいで賞」が、後藤邦彦実行委員長から贈られました。

また、点灯式会場と観月台文化センターではキャンドルパーティーも行われました。グリーンアリーナ内のキャンドルに火が灯されると、県北中学校美術部デザイン部の大きなクリスマスツリーとくにももたんが浮かび上がりました。幻想的な雰囲気にもまれながら、福島市出身のシンガーソングライターshimv aさんのライブも行われ、来場者を盛り上げました。午後5時になるとカウ

トダウンが始まり、点灯スイッチが押されると、標高289メートルの阿津賀志山山頂に光が灯されました。同時に200発の花火が打ち上げられ、会場からは歓声が上がりました。点灯後には、商工会青年部から温かいスープがふるまわれました。

このビッグツリーは、町建設業協会と管工事組合のみなさんが、少しでも良く見えるよう配置を工夫しながら設置しています。寒風の中での作業がビッグツリーの「灯」を支えています。

